



2020年5月12日

各 位

会 社 名 和弘食品株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 和山 明弘  
 (コード番号 2813)  
 問合せ先責任者 経理部長 市川 敏裕  
 (TEL 0134-62-0505)

特別損失の計上及び連結業績予想数値と実績値との差異、  
並びに個別業績実績値と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、特別損失の計上及び2019年5月10日に公表しました2020年3月期連結業績予想数値と本日公表の実績値との差異、並びに2020年3月期個別業績と前期実績値との差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社の連結子会社である WAKOU USA INC. は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で米国における経済活動の大幅な自粛を受けており、主流販売先である外食市場向け販売が大幅に減少し、新型コロナウイルス感染症の収束目途も見通せない状況であることを踏まえ、将来の回収可能性を慎重に検討した結果、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額処理することにより、減損損失428百万円を特別損失に計上いたします。

また、当社は、上記連結子会社の減損処理の影響により、当社の保有する関係会社株式の時価が取得価額に比べて著しく下落したことによる減額処理により、減損損失1,553百万円を特別損失に計上いたします。

なお、当社の特別損失については連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

2. 2020年3月期連結業績予想数値と実績値との差異（2019年4月1日～2020年3月31日）

|                          | 売 上 高  | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 親会社株主に<br>帰属する<br>当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|--------|---------|---------|-------------------------|----------------|
|                          | 百万円    | 百万円     | 百万円     | 百万円                     | 円 銭            |
| 前回発表予想 (A)               | 10,876 | 317     | 330     | 264                     | 323.02         |
| 当期実績 (B)                 | 11,082 | 235     | 245     | △253                    | △309.59        |
| 増減額 (B - A)              | 206    | △81     | △84     | △517                    |                |
| 増減率 (%)                  | 1.9    | △25.8   | △25.7   | △195.8                  |                |
| (ご参考) 前期実績<br>(2019年3月期) | 10,219 | 185     | 223     | 124                     | 152.17         |

### 3. 2020年3月期個別業績実績値と前年実績値との差異（2019年4月1日～2020年3月31日）

|          | 売上高   | 営業利益 | 経常利益  | 当期純利益  | 1株当たり<br>当期純利益 |
|----------|-------|------|-------|--------|----------------|
|          | 百万円   | 百万円  | 百万円   | 百万円    | 円 銭            |
| 前期実績（A）  | 9,390 | 230  | 267   | 176    | 215.15         |
| 当期実績（B）  | 9,948 | 223  | 227   | △1,399 | △1,709.33      |
| 増減額（B－A） | 558   | △7   | △40   | △1,575 |                |
| 増減率（％）   | 6.0   | △3.1 | △15.2 | △894.6 |                |

#### 4. 修正の理由

##### ①連結業績予想数値と実績値との差異

売上高につきましては、日米ともに外食市場向け業務用調味料の販売が好調に推移し、売上高は11,082百万円（前回予想比1.9%増）となりました。

利益面につきましては、海外にある連結子会社の工場稼働率上昇により製造原価率が低減したことで営業損益は黒字に転換したものの、国内においては、原材料価格の上昇、雇用環境の改善などを背景とした人件費の増加に加え、物流費の上昇等が損益に影響したことから、営業利益は235百万円（前回予想比25.8%減）、経常利益は245百万円（前回予想比25.7%減）、更に新型コロナウイルス感染拡大による業績への影響を鑑みて特別損失を計上したことにより、親会社株式に帰属する当期純損失は253百万円（前回予想比195.8%減）と前回予想を下回る結果となりました。

##### ②個別業績実績値と前年実績値との差異

売上高につきましては、引き続き外食市場および中食市場向け業務用調味料の販売が好調に推移し、売上高は9,948百万円（前期実績比6.0%増）となりました。

利益面につきましては、原材料価格の上昇、雇用環境の改善などを背景とした人件費の増加に加え、物流費の上昇等が損益に影響したため、営業利益は223百万円（前期実績比3.1%減）、経常利益は227百万円（前期実績比15.2%減）、更に新型コロナウイルス感染拡大による連結子会社の業績への影響を受けて関係会社株式の一部の減額処理を特別損失に計上したことにより、当期純損失は1,399百万円（前期実績比894.6%減）と前期実績を下回る結果となりました。

（注）上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は今後様々な業況の変化等により予想数値と異なる場合があります。

以上